

私は、震災当時、福島に住んでいた者ではありません。震災後に、福島市に移り住んだ者です。ですので、震災直後の苦しみや痛みは、直接知りません。体験した人に教えていただいて、想像するしかできないのです。

しかし、震災3年後に、福島の応援になればという思いで、関西・岸和田市から福島市に移り住み、福島県民、福島市民として8年間生きてきました。そんな者から見た福島の課題を、距離的にも離れていて実情がなかなかわからない皆さまに、歴史の教訓の事例として分かち合いたいと思います。そのことが今後の私たちの生き方の方向性を定める一助になることを願いつつ、お話しさせていただきます。

## I なぜ福島へ

### 1 自己紹介

まず自己紹介をかねて、なぜ福島へ移ったのかからお話しします。

小学生の頃から理科少年だった私は、大学の理学部化学科に進学しました。専攻は分析化学です。直接、放射能と関係する勉強をしていたわけではありません。

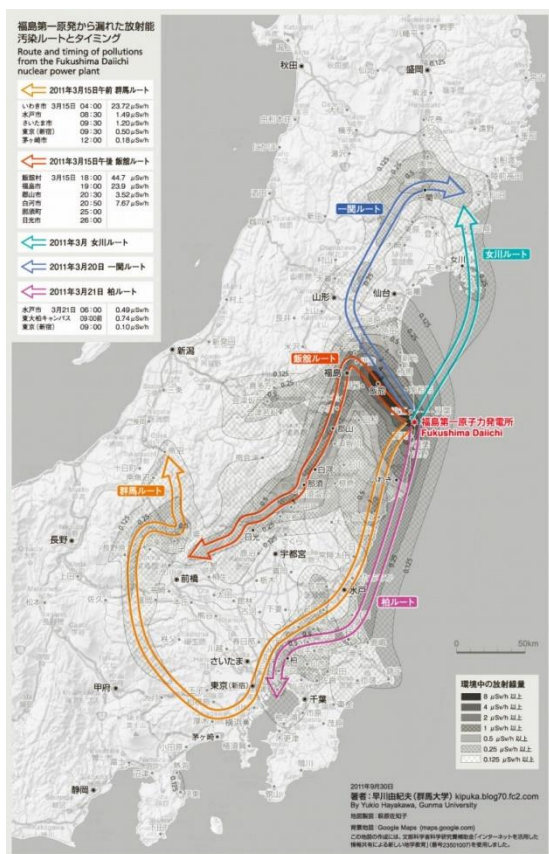
当時公害の問題が大きく取り上げられていたことも影響して、『科学と社会』という観点から、社会の矛盾について関心をもつクリスチャン学生でした。しかし、私が所属していた教会の周辺では、クリスチャンとしてそのような話しをできる場所はありませんでした。それで、学内で左翼の学生運動の一つで、科学技術問題を考えるサークルに出入りするようになりました。そこで、

核の問題や原発を取り巻くさまざまな問題について知ることとなったのです。

卒業後、一般の企業に就職し、そういった関心から遠ざかりましたが、さまざまな問題から原発を稼働すべきではないという考えを持ち続けていました。そして、まだ私が企業の一員であった1986年に、チェルノブイリ(チェルノブイリ)原発の事故が起きました。終末の前兆<sup>(1)</sup>ということが、私の頭をよぎりました。そして、大阪・岸和田市の牧師であった2011年に、東日本大震災に続く福島第一原発の事故が起こり、再び深い関心へ引き戻されました。

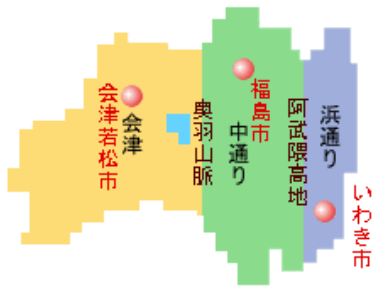
### 2 放射能汚染について

原発事故が起こり、広範囲に及ぶ地域が放射性物質で汚染されました。左図は、広くネットなどで知られている群馬大学早川由紀夫教授が作成した放射能汚染を示す地図です。事故後内陸部を流れた代表的な5つのプルーム(放射性物質の雲)の流れを示しています(忘れてはならないことがあります。多くは海側に流れ、トモダチ作戦で福島県沖およそ200キロの地点を通過した空母「ロナルド・レーガン」の乗組員が被爆しています<sup>(2)</sup>)。福島県においては、特に橙色の経路ですが、雨や雪の影響を受けて、浜通り(浪江町・飯館村)から通り(福島市・郡山市)にかけて、深刻な放射能汚地帯となりました。



代表的な5つのプルーム

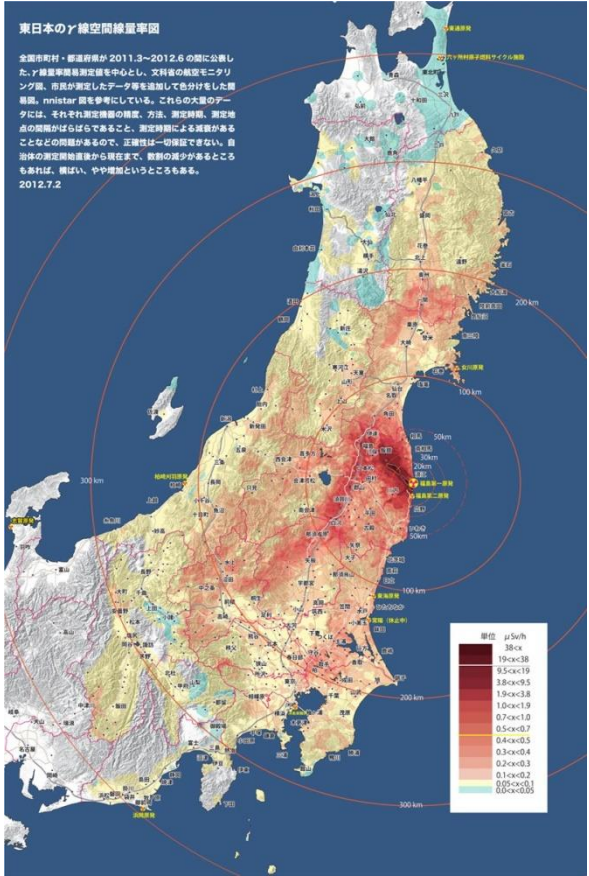
- 紺 一関ルート
- 青 女川ルート
- 紫 柏ルート
- 橙 群馬ルート
- 赤 飯館ルート



福島は、山に仕切られる三つの地域に区分します。『浜通り』は、太平洋側に面している温暖な海の気候の地域です。福島第一原発があるのはここです。南にいわき市、北に相馬市があります。『中通り』は、吾妻山や安達太良山がある奥羽山脈と阿武隈高地（山塊）に挟まれた内陸気候の地域で、東北本線、東北新幹線、東北自動車道が通っています。

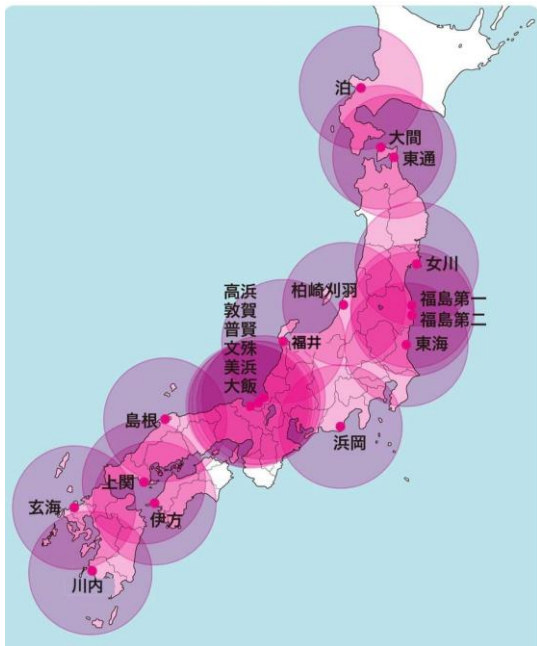
県庁所在地の福島市や郡山市があります。『会津』は、新潟県に隣接し、気候は日本海側気候を呈し豪雪地帯です。会津若松市があります。

放射能汚染を示す地図をごらんください。東日本全体が汚染されました。福島県だけではなく、東北では、宮城、岩手（一関市、花巻市、水沢市、奥州市）、関東では、茨城（つくば市 セシウムボールを150キ。離れた気象庁研究所で観測<sup>(3)</sup>）、栃木（日光市・霧降高原での宿泊教育）、群馬、埼玉、千葉（柏市・手賀沼の高度の汚染）、そして東京（東部の葛飾区・江戸川区・足立区が高度に汚染 金町浄水場の汚染<sup>(4)</sup>と池江璃花子の白血病の関係は？）などが、話題となりました。



東日本の空間線量

これらは東日本での話になりますが、西日本でも、愛媛県宇和



島にある四国電力の伊方原発や、若狭湾にある関西電力をはじめにたくさんの原発があり、重大事故が起これば、同じ問題が起こります。こういった問題は、九州だって、北海道だって、原発のない沖縄を除いて、日本各地で起こりうることです。イメージしていただくために、地図を示します。

私個人の話に戻りますが、震災後、浜通りから中通りにかけて高汚染地帯が広がる中、避難を続ける人、そして住み続ける人がいます。人が住む限り、誰かが寄り

『あなたは、どこに住んでいますか？』 添っていかなければならないでしょう。そして、このような私でも、それが許されるなら、支援をしたいという思いが与えられたのです。それで、11年牧師として働いた大阪・岸和田市の教会を、任期の切れ目のタイミングに合わせて2014年3月で辞め、とにかく現地に行ってみようと、5月に福島市に、個人として、立場も組織もなく“ただの人”としてやってきました。しかし、神様の不思議な導きをたくさんいただきながら、また具体的には福島県内外の牧師・信徒・関係者の助けを頂きながら、福島市に住み、程なくして福島市の教会の牧師として働きも始まり、手さぐりながら活動を進めることができました。

## II これまで行ってきたこと

そうして始まった活動ですが、次に、どんな活動してきたのかをお話します。

福島で住む以上、原発事故や放射能汚染の問題に向き合い続ける必要があります。現実（危険なこととそうでないこと）を知って、正しく恐れることが必要なのです。

震災後に活動が始まった『福島県キリスト教連絡会（略称F C C）』の中に、私自身の活動が始まってすぐに、『放射能対策室』が設立されました。現在は退いていますが、対策室の代表として全体をとりまとめながら、そこを中心に活動をしてきました。これらの活動を紹介することで、具体的に震災後の福島の放射能汚染を俯瞰します。

### 1 福島県キリスト教連絡会（F C C）放射能対策室での活動

『放射能対策室』の活動は、大きく3つです。それは、放射能・放射線の計測活動、放射能問題学習会、高汚染地帯や原発周辺の現地案内（スタディー・ツアーの企画・運営）です。

#### ① 計測活動

最初の計測活動には、大きく二つあります。放射能は色も臭いもありませんから、実際に計ってみないと、安全か安全でないかわかりません。一つは住むところの現状を知るための空間線量の計測です。もう一つは、私たちが口にする食べ物に含まれる放射性物質を量る食品計測です。私は主に、その前者の空間線量の計測に関わってきました。

空間線量を測るのに、ホットスポットファインダーという計測器を用いました（左図）。一台100万円以上する計測器ですが、F C Cで1台購入し、そしてキリスト教団体の支援でさらに2台

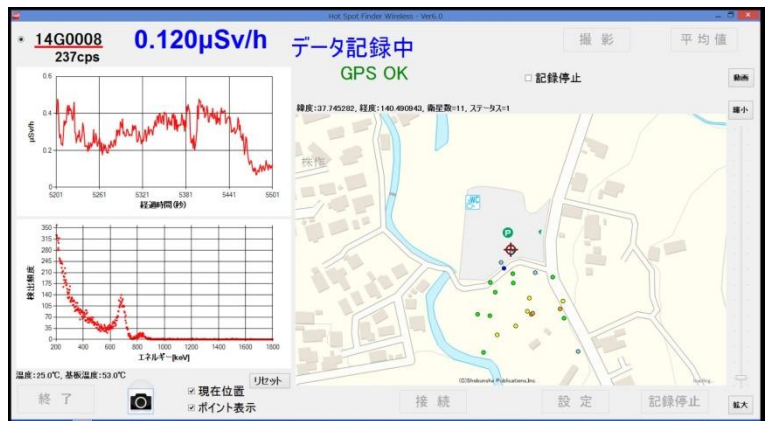
**モニターのタブレットと検出器** 与えられ、合計3台を所有することができました。

それぞれ、福島市、郡山市、いわき市の3カ所に置かれ、運用してきました。

ホットスポットファインダーの検出部分には、放射線のセンサーとGPSのセンサーがあり、空間線量のデータと位置情報のデータとを無線でタブレットに送り、タブレットに表示される地図上に線量データが書き加えられるというものです（右図）。さらに、この装置で記録されたこれらのデータを処理すると、地図（Google Earth）や撮影画像に空間線量を書き込んだ線量マップを作成することができます。

数値は、 $\mu\text{Sv}$ （マイクロシーベルト）／時で示された放射線量で、何も汚染がない地域では0.1以下の数値を示します（日本平均は $0.04\mu\text{Sv/h}$ ）。一般の人々の健康を守るための基準である公衆被ばくの線量限度

「年間 $1\text{mSv}$ （ミリシーベルト）」は、単純計算で $0.1\mu\text{Sv}$ ／時を超えなければ守られます。国は、放射線量の低い室内などで生活するのだから、 $0.23\mu\text{Sv}$ ／時が年間で $1\text{mSv}$ の規準となると緩い規準を示します。いずれにせよ、 $0.2\mu\text{Sv}$ ／時を超えると（色で言うと、緑、黄、橙、赤）は、線量の高い要注意の場所と言えます（濃青は問題なし、淡青はやや注意）。作成される空間線量マップに、線量の数値も示されていて、一目で状況を理解することができます。地域の広い範囲が同じような数値を示すとは限らず、高い、低いがあり、特に高線量を示すホットスポットが存在する場合があります。福島市内（東部）の計測例を示します。

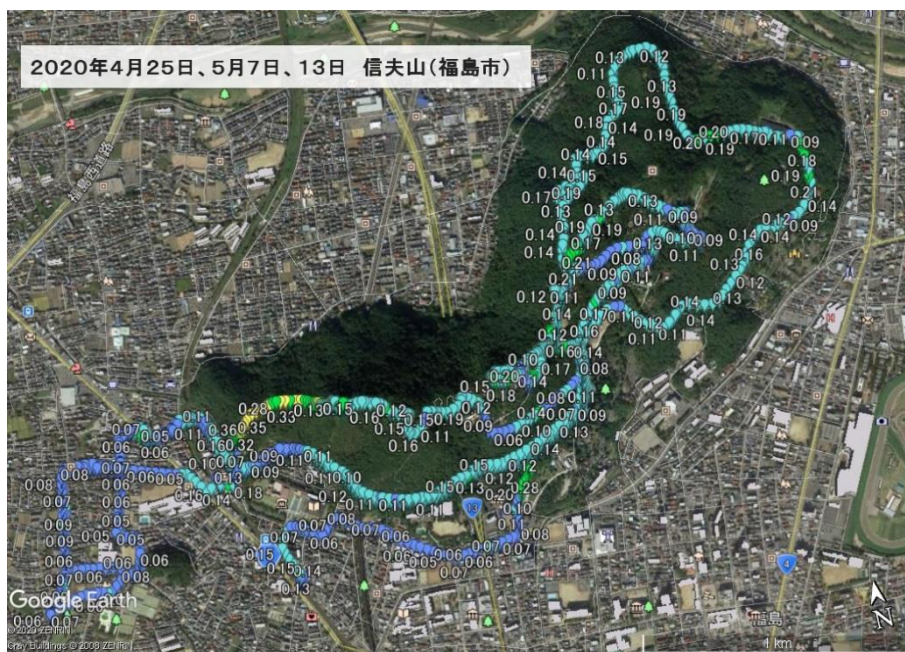


HSFの計測画面（2018.3.19花見山臨時駐車場）



空間線量のマップ (2018. 4. 13 花見山)

このような放射能汚染の現実を知って、賢く生きることが必要なのです。特に放射能の影響を受けやすい子どもたちの被曝を軽減させることは大切なことです。



空間線量のマップ (2020. 5. 7 信夫山)

地図上のプロット

(数値は、 $\mu\text{Sv}/\text{時}$ ) の色分けの大雑把な意味

濃青 (0.00-0.10)

放射能汚染がないところ

と同等の線量

年間の追加被曝1mSv内

淡青 (0.10-0.20)

緑 (0.20-0.30)

何とか許容範囲の線量

黄 (0.30-0.40)

要注意の線量

橙 (0.40-0.50)

もう少しで放射線管理区域に定められる線量

赤 (0.50- )

直ちにその場から立ち

去った方がいい線量

## ② 放射能問題学習会

二つ目の放射能問題学習会は、福島県内の牧師や信徒たちが、県外の方々の参加・協力も頂きながら、放射能問題に理解を深めていくために開催してきたものです。担当者が課題書籍をレポートする形で進められ、自由に意見や情報の交換をします。1～2カ月に一度の頻度で、10名前後の人が参加して、開催してきました。

## ③ 現地案内 (スタディー・ツアーの企画・運営)

三つ目は、高汚染地帯や原発周辺の現地案内、スタディーツアーの企画・運営です。実際に現地を見ると、厳しい現実がはっきりとわかります。新型コロナの感染拡大の影響もあって、現地案内の依頼はなくなりましたが、今も状況の変化を知るために、個人的に現地視察を行うようにしています。灘教会の西牧夫牧師も現地案内を希望され、日本キリスト教改革派の活動として参加してくださいました。



2019. 5. 16 浪江町津島地区



中間貯蔵施設（大熊町）

一例として、福島市を起点として移動するツアーの線量マップ（川俣町から浜通りへ計測データ）を示します。国道114号線に沿って高度に汚染された地域（地図で赤くプロットされている浪江町・津島地区<sup>(2)</sup>）があることや、同心円状に汚染が広がっているのではない（原発から約7キロの距離にある請戸地区では線量は高くない）ことがわかります。



## 2 県外から来た者として

『放射能対策室』という公的な活動とは別に、個人的なこととして、被災地の情報が少ない他県に住んでいる方々に、県外から来た者の目を通して、現地の現状をお伝えする役割を意識した

活動もしました。具体的には、年に1回ですが、年末から3・11ぐらいの時期に、『福島で思うこと』<sup>(4)</sup>という私信を出しました。私信ですが、熱心に読んでくださる方が多くいて、500部以上、最後はネット配信を含めて1000部近くを配信することになりました。

そういう活動を通して、発信をする者と発信を受け取る者との関係が深まるのが大切だと思いました。この私信を通して、さまざまつながりができました。私が関西から福島に移った関係で、関西と結び付きが強く、関西から福島を訪問してくださる方がたくさんおこされました。また逆に、今日のこの機会もそうですが、関西の教会から呼んでいただいて、福島のことをお話しする機会が何度かありました。

### III 福島の今

#### 1 大きく変わった空気

次に、今の福島の様子について、私の目から見た風景を通してお伝えします。

##### ① 福島に来たときの空気

私が移り住んだ2014年は、私自身が緊張していたこともあるでしょうが、街には間違いなくある種の緊張感がありました。当時は、福島第一原発の4号機使用済燃料プールに使用済燃料が大量に残っていて、地震で痛んだプールが崩壊すると、再び大事故になりかねない状況でした。私自身の生活面では、この野菜を食べていいのか、水道水を飲んでいいのかの疑問から始まります。ニュースを見ると、学校での校外学習・運動会ができるのか、できないのかなどの切実な問題が取り上げられていました。

福島市の街を歩き回りましたが、これまで見たことのない特別な風景にぶつかりました。そのいくつかを紹介します。



2014. 9. 26 除染作業の看板



2014. 5. 17 公園のモニタリングポスト



2014. 5. 17 福島駅前線量表示

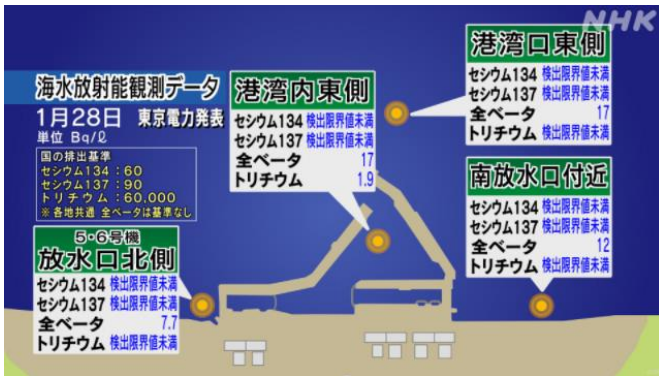
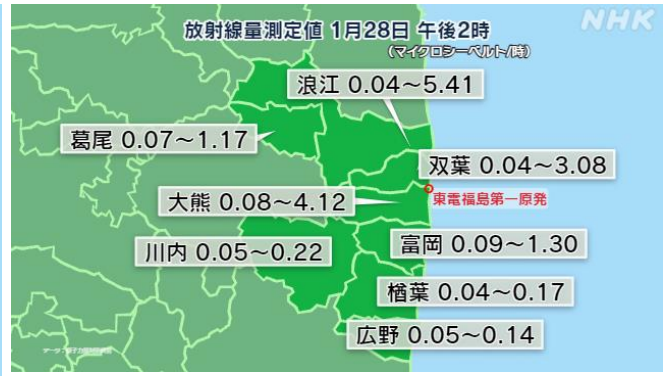


2014. 6. 2 福島市市内 河川敷の公園の注意事項

線量を下げるために、汚染されたところの表面から数 cm ~5cm の表土をかきとる除染がいたるところでなされていました。公共の場所から始まり、個人の家にも及びました。

##### ② 最近の福島の空気

でも、福島市に移り住んでから6~7年経つところから、福島の空気は随分変わったと感じるようになりました。緊張感はだんだん消え失せ、何事もなかったかのような空気が広がりつつあります。



最近、そう感じた事例を一つあげます。県外の方は驚くかもしれませんが、以前は、NHK福島のニュースで、毎日の天気予報といっしょに県内の放射能観測データ<sup>(1)</sup>が伝えられていました。2021年の秋からだったと思いますが、それが放送されなくなりました（現在は、NHK福島WEB上で公開されています）。表示している3枚は、2022年1月28日のWEB上に公開されたものです。

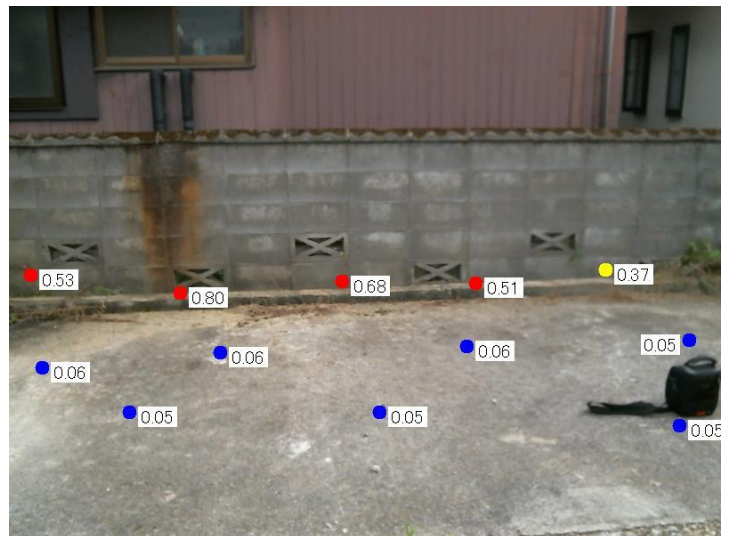
「風評被害の払拭」という掛け声の中、復興、帰還政策、観光、農産物・水産物、オリンピック・パラリンピックの開催などの話題やニュースが溢れています。そして、それらが指し示するものは、「安全・安心」です。

確かに、福島市のモニタリングポストの表示する放射線空間線量も下がってきたり、市販されている農産物から放射能物質が検出されなくなったりと、安心・安全の材料が増えていることは事実です。しかし、放射能高汚染地域に行くと相変わらず高い線量のままですし、山菜・川魚などは今だに放射能物質が検出され出荷制限がかかっていることがあるのです。最近話題にも出ませんが、日本政府が地震発生当日に発令した「原子力緊急事態宣言（福島第一原子力発電所で起きた事象について）」<sup>(2)</sup>は、今なお解除されていません。まだまだ見なければならぬ、知らなければならぬ現実があります。

最近、身近でホットスポットが見つかったという事例を紹介します（情報提供〇牧師）。

2021年夏に、福島市内の教会で牧師をしておられる〇牧師宅の駐車スペースで、にわかに信じがたい空間線量が計測されました。そこから採取した土壌の計測でも、放射性物質汚染対処特措法で「廃棄物を安全に処理するための基準」の8千Bq/kg（ヘル/キログラム）を遥に越える14万Bq/kg（試料が少ないので参考値）が計測されました。

その後、福島市、環境省、東京電力の担当者たちが、異例の速さで対応したそうです。原発事故から10年たった今でも、福島市の住宅地の中で、こういう事例があるのです。



今でも見つかるホットスポット（2021.8.1）

## 2 最近の風景

### ① 汚染土

目につく風景として、つい最近まで続いた除染土の搬出作業があります。除染で出た汚染土が、フレコンバック（フレキシブルコ



#### 2015. 7. 28 個人の敷地での埋設作業

遮蔽するために土嚢で覆いさらにビニールシートをかけて保管してきました。

かきとった除染土はフレコンバックに入れて、市内の仮置き場にもっていくのですが、あまりにたくさんあるので、仮置き場が確保できません。それで、いわゆる仮・仮置き場として、個人宅や公園、学校のグラウンドなど、かきとった



#### 2015. 7. 28 個人の敷地での埋設作業

ンテナバッグ 1トン程度の重量物を充填できる袋状の包材)に収納されて、福島市では、個人宅や公的なスペース（公園、学校のグラウンド、山林など）に、地面に穴を掘って地中に埋設したり、地上に積み上げ、放射線を遮



#### 2019. 4. 1 あづま運動公園除染土

ケンを付けた大型トラックによって、順次、福島第一原発周辺に設けられた中間貯蔵施設へ運びだされています。運び込まれる除染土の量に愕然とします。これらは、福島県外で最終処理され

ことになっているのですが<sup>(3)</sup> . . . . .  
これまで、法務局やハローワークが隣接する福島市の中心部の国有地や福島市郊外にある県営あづま総合運動公園（ここにあるあづま球場は、東京五輪の野球・ソフトボールの会場となりました）に保管されている除染土の搬出の様子を見て驚きましたが、より最近の二つの風景を示します。



#### 2019. 4. 4 除染土保管場所（法務局隣）

その場所に穴を掘って地中に埋設したり、山林や田畑などでは放射線を遮蔽するために土嚢で覆いビニールシートをかけて地上保管してきました。

これら地域で保管されてきた膨大の量の汚染土は、「環境省除去土壌等運搬車」のゼッ



一つは、信夫山の麓にある 県立美術館・図書館の敷地（建物の前の広々とした広場）です。



2020. 9. 2 県立美術館・図書館



2020. 9. 30 県立美術館・図書館

もう一つは、信夫山を近くに見ることができる街中の普通の公園です。



2021. 1. 25 住宅街にある公園



街中で目隠しのフェンスの設置が始まると、搬出作業が始まると驚きをもって見ていましたが、あまりにいたるところであるので、感覚が麻痺して日常の風景になってしまいました。非日常のことが日常のことになってしまうことに恐れを覚えます<sup>(4)</sup>。

## ② 東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉町）

東日本大震災・原子力災害伝承館が、第一原発から北に約5キロ、海岸から約500メートルの位置に出来、2020の9月20日に開館しました。復興祈念公園、双葉町産業交流センターも隣接し、周辺には中間貯蔵施設の受け入れ分別施設が見え、津波被害を受けた家屋が残っています。



原子力災害伝承館



2021. 7. 19 伝承館の遠望

ここは少し前までは帰宅困難区域に指定され、一般の人は立ち入ることが出来ませんでした。2020年3月4日に避難指示が解除(双葉町北側の一部)されたのです。伝承館は、地震や原子力災害および復興の過程を示す資料を収集保存して未来に残すとともに、それら約24万点に及ぶ収蔵資料を活用した展示を行ない、災害・復興に関する情報を発信し、さ

らに研修プログラム等を実施する施設であるとされています。しかし、過去の教訓を学ぶそのあり方や方向性に、多くの方から疑問の声が上がりました。その一つが、東京電力福島第一原発事故前に福島県双葉町に掲げられていた『原子力明るい未来のエネルギー』の標語の看板が、伝承館に展示されないことでした。



広報塔として設置された当時の様子

広報塔として設置された当時の様子

この標語は、当時、双葉北小学校6年生だった大沼勇治さんが、学校の宿題として町の公募に応じて考案したものです。優秀賞に選ばれて広報塔に1991年から掲げられただけではなく、町民大会や海開きのテント、道路沿いの電光掲示板、電話帳の表紙など町のいたるところで使われ、原発城下町である双葉町を代表する標語となりました。原発事故後、看板はしばらく放置され、2015年12月には老朽化を理由に双葉町が撤去しました。

標語を考案した大沼さんらは「原発事故の悲さと教訓を後世に伝えるためにも残すべきだ」と、約6000人以上の署名とともに、双葉町に撤去反対を申し入れましたが、受け入れられませんでした。また、伝承館が開館した際には、双葉町は看板の実物展示を要望しましたが、県は写真の展示にとどめました。大沼さんは「本物には重みがあり、展示してほしい」と県の消極的な姿勢に疑問を投げ掛けました。こんな経緯がある看板ですが、現在は館外に原発推進の負の遺産として展示されています<sup>(5)</sup>。

この標語は、当時、双葉北小学校6年生だった大沼勇治さんが、学校の宿題として町の公募に応じて考案したものです。優秀賞に選ばれて広報塔に1991年から掲げられただけではなく、町民大会や海開きのテント、道路沿いの電光掲示板、電話帳の表紙など町のいたるところで使われ、原発城下町である双葉町を代表する標語となりました。原発事故後、看板はしばらく放置

され、2015年12月には老朽化を理由に双葉町が撤去しました。



館外に展示された実物



2021. 7. 19 遺構に整備される前の様子

2021. 7. 19 遺構に整備される前の様子

### ③ 浪江町立請戸小学校と請戸地区（浪江町）

請戸小は海から約300メートルに位置します。2021年10月24日、福島県では初の震災遺構として、公開されました<sup>(6)</sup>。請戸地区では津波で127人が亡くなりましたが、約100人の全校生徒は近くの人に助けられ無事でした（『請戸小学校の奇跡』）。

請戸地区は福島原発10キロ圏内に含まれ、3月12日早朝にだされた避難指示の該当地区になり、津波被災者の救出や行方不明者の捜索は出来ませんでした（映画『無念』<sup>(7)</sup>）。その後、6年間避難指示が続きましたが、実際は放射線量の低い地域だったのです。

### ④ 福島第一原発最寄り駅周辺の景色（双葉駅／双葉町、大野駅／大熊町、夜ノ森駅／富岡町）

2020年3月14日に常磐線が全線開通しましたが、常磐線の3つの原発最寄り駅では乗降客はほとんどありません。駅舎はきれいに改修されていますが、一步駅周辺に足を進めると、帰宅困難地区として指定されたままの地域となり、不思議な光景が広がっています。

2021年7月の大野駅の様子です。駅から線路に沿った商店街は、立ち入りできないように、ゲートが設けられています。



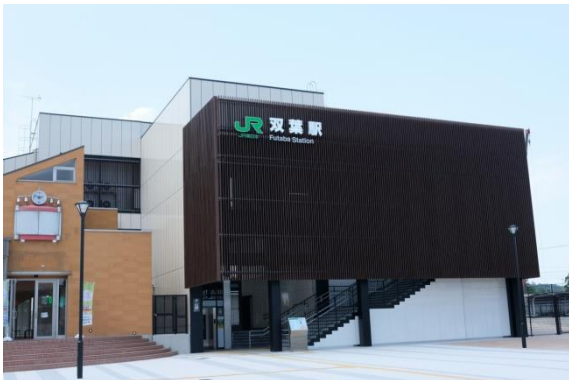
2021. 7. 19 大野駅



2021. 7. 19 大野駅周辺

11月30日から

立入規制緩和を実施され、大野駅周辺など約860ヘクタールを対象（2021年11月1日時点で約2200世帯約6千人が住民登録）に準備宿泊が始まりましたが、申請をしたのは15世帯31人とどまっています。



2020. 6. 5 双葉駅



2020. 6. 5 双葉駅前

いまだ全町避難が続く双葉町の双葉駅周辺の様子も、同様です。駅と駅前には全く普通の景色に見えますが、駅周辺と駅に繋

がる道路のみ避難指示が解除されているのです。

3つ目は、桜並木が有名な富岡町の夜ノ森駅周辺の様子です（夜ノ森駅のツツジも有名）。双葉駅周辺の様子と同様で、



2020. 6. 5 夜ノ森駅



2020. 6. 5 夜ノ森駅前

駅周辺と駅に繋がる道路のみが避難指示解除されています。

これら3つの駅周辺は、撮影した時点では帰宅困難地区に指定されていましたが、これからここを含む広い範囲で避難指示が解除され、帰還に向けての動きが始まります。しかし、帰還を希望する住民は限られています。

#### IV 預言者のことばを聞き、預言者に連なる

##### 1 繰り返される人間の罪深い歩み

— 救済されない被害者、被害の長期化、責任をとらない加害者、事実の隠蔽

##### ① 足尾

足尾銅山鉍毒問題は、日本で初めての公害事件として注目され、1890年代に栃木県出身の衆議院議員、田中正造によって問題提起されました。

館林市には田中正造記念館があります。私は、ここを訪れ、鉱毒に汚染された残土を山積みした様子を写した古い写真を見たとき、衝撃を受けました。福島の放射能に汚染された除染土の山を見ているかのような思いにされたからです。

東日本大震災の地震の余波とみられる地滑りでは、堆積場が崩れ、鉱毒汚染物質が渡良瀬川に流出し、下流の農業用水取水地点では基準値を2倍上回る鉛が検出されました。100年近く経っても、汚染の問題は何も解決していません<sup>(1)</sup>。

## ② 水俣

当初原因不明の病気とされた水俣病も、その原因が、チッソがアセトアルデヒドの製造で出した排水に含まれる有機水銀であることがはっきりしてきても、加害企業のチッソは、学者を利用してその原因を否定し、長く責任を認めませんでした<sup>(2)</sup>。ようやく認めたのは1968年で、チッソがアセトアルデヒドを作り始めて36年後のことでした。

## ③ 長崎

原爆の放射能汚染の実態と権力者側によるその事実の隠蔽に関する興味深い事例を示します。

原爆が投下された長崎市市街地から3キロ離れた山あいにある西山地区は、山陰にあり初期放射線を受けなかったにも関わらず、原爆投下後しばらくして、住民の体調不良や、原因不明の死が相次ぎました。爆発後にプルームが上空を通過し、雨が降り、盆地である西山に、放射性物質が堆積したと考えられます。1945年9月、調査団が入り、爆心地より高い残留放射線が認められたにも関わらず、責任者は調査団に圧力をかけ、残留放射線のデータを隠蔽しました。国や権力者の都合で、真実を知らされることがないことが多いのです<sup>(3)</sup>。

## 2 現代の預言者

### ① 旧約聖書の預言者の姿

旧約聖書の預言者たちは、神に召されて、神の言葉を託され、それを王やイスラエルの民に伝えた人びとです。相次ぐ戦争や捕囚といった困難の時代に、神の言葉をそのまま伝えることは、人びとに悔い改めを求め、未来を語り、その時代の人々に歩むべき道を説くこととなります。しかし、残念ながら、王や祭司、権力者、さらには民から受け入れられませんでした。

### ② 内村鑑三と田中正造

明治の時代において、預言者的な発信を続けたのが、内村鑑三と田中正造でしょう。そして、彼らが向き合った課題は、実に今日的な課題です。足尾銅山鉱毒問題に見る国や企業のあり方、富国強兵に沸き立って世相に流される国民の空気に、抗い、警鐘を鳴らす重要性は、そのまま現代にも当てはまります。公害などに見る人間の罪深い歩みは、足尾（古河鉱業）から水俣（日本窒素肥料）を経て、福島（東京電力）へ繋がっています。同じ構図があって、歴史は繰り返されているのです。その意味で、その基本の姿を、公害問題の原点になる足尾銅山鉱毒事件から、また田中正造の姿から、学ぶことは、大変意義のあることだと感じます。

### ③ 同時代の預言者的働きをする人たち — 批判的科学家たち

同時代にも預言的発信をした人がいます。公害や原発事故に対して発言をしてきた批判的科学家（宇井純・熊取六人組<sup>(4)</sup>など）です。彼らの発信は、私たちに生き方、考え方を問いかけます。

### 3 わたしたちに問われること ― 光と塩になる<sup>5)</sup>

#### ① 流れに抗う

今まで、私はあまり使わなかったことばで、福島に来てときどき耳にして、私の心にとどまった言葉があります。それは『抗う』です。「風化にあらがう」とか「忘却に抗う」と言われるのを聞きます。

『抗う』は、「抵抗する」、「負けずに言い返す」という意味ですが、英語で言うと、プロテスタントの語源になる「プロテスト」でしょう。流れにまかせてそのまま流れていくのではなく、大切なことがあれば、流れに反してとどまらないといけません。何もなかったのごとく流れる流れに、楽観的な空気に、抗う必要があるのだと思います。主の正義と公正を保つために、国家のあり方・原子力行政・原発事故の対処をめぐって、感情的ではなく、知識を得て、抗う、プロテストする必要があるのです。

#### ② か細いながらも声となる

私たちは預言者の声を聞き、また私たち自身が、か細いながらも預言者の声となる必要があると思います。発信すること、互いに語り合うことをしたいと思います。

## V 神の約束と希望

### 1 二つのみことば

#### ① 「あなたを忘れない」

岸和田の牧師を辞める前の年2013年の秋、『宣教フォーラム・福島』というキリスト教関係の大会が郡山であり、私は事前調査もかねて参加しました。大会終了後も個人的に数日間福島に留まって、福島在住の二人の牧師の協力をいただいて県内を視察しました。

その中で一般の方々のお話をお伺いする機会が何回かありましたが、漁港で出会った避難している漁師の人達がいまいました。その人たちが、口をそろえたかのようにおっしゃったことがあります。「オレたちは捨てられた」、「国は、オレたちが死ぬのを待っている」・・・なんと悲しい言葉だろうと思いました。『棄民』・・・国は被災者に、一見、丁寧に対応しているようだけれど、その人の人格や健康や財産をふさわしく扱わない、実は軽んじているのです。

でもそんな中、私の心に呼び起こされたことばがイザヤ書49章15節です。

**女が自分の乳飲み子を忘れるだろうか。自分の胎の子をあわれまないだろうか。たとえ女たちが忘れても、このわたしは、あなたを忘れない。**

しかし、「オレたちは捨てられた」と言うそのつぶやきに、神はその言葉を遮り、はっきりと約束されるのです。

#### ② 「あなたがたとともにいます」

また、福島で感じたことに共にいることの大切さがあります。私のようなものでも、同じ福島に住むということに、福島の人たちは大きな意味を感じてくれました。

しかし、考えてみると、神はともにいてくださることを語り続けておられます。マタイの福音書28章20節には

**見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。**

聖書の中には、神の力強い約束が、なんとたくさん満ちているでしょうか。

### 2 本当の答え

いろいろな活動が福島でなされていて、私もその一端に関わりましたが、あまりに大きな課題に、目の覚めるような答えや解決は、見つけれられません。でも、そんな状況だからこそ、見えて

くるものがあるのです。真の解決は主にあるのであって、神と出会わないといけないのです。私は、このことを信じて、福島の地で生涯を閉じたいと願っています。

神は われらの避け所 また力。苦しむとき そこにある強き助け。それゆえ われらは恐れ  
ない。たとえ地が変わり 山々が揺れ 海のただ中に移るとも。たとえその水が立ち騒ぎ  
泡立っても その水かさが増し 山々が揺れ動いても。セラ（詩46:1-3）

## 付 録

### A 補遺

#### I なぜ福島へ

- (1) トモダチ作戦で海上に来ていたアメリカ海軍の兵士が被爆

・「トモダチ作戦派遣中に原発事故で被ばく 米兵の健康被害知って」

<https://kahoku.news/articles/20210305khn000048.html>

・NNNドキュメント『「放射能とトモダチ作戦」米空母ロナルドレーガンで何が？』

(2017/10/9放送)

<https://kakaku.com/tv/channel=4/programID=4003/episodeID=1102950/>

#### 【放送内容】

福島第一原発の事故で汚染されたのは東日本の陸上だけではありません。実は、放射性物質の約8割は太平洋上に流れ込んでいました。東北沖で「トモダチ作戦」として支援活動していたのが、米空母ロナルドレーガン、当時、艦内では放射能アラームが鳴り響いていました。乗組員の兵士らは今、続々と放射能による健康被害を訴え、死者は9人になっています。そして米兵ら400人以上が東電などを訴えています。

- (2) マタイの福音書24章、黙示録4～20章

- (3) セシウムボール

[https://information.pal-system.co.jp/wp/wp-content/uploads/2018/08/2018091\\_radiationreport.pdf](https://information.pal-system.co.jp/wp/wp-content/uploads/2018/08/2018091_radiationreport.pdf)

- (4) 金町浄水場

<http://www.asahi.com/special/10005/TKY201103230282.html>

#### II これまで行ってきたこと

- (1) 【85カ月目の福島市はいま】にぎわう花見山。（民の声新聞）

<http://taminokoeshimbun.blog.fc2.com/blog-entry-242.html>

- (2) 『福島で思うこと』1～8、続編として『福島の空の下で』

#### III 福島の今

- (1) NHK福島のニュース

福島県では毎日、18時50分過ぎから始まるNHKの気象情報のなかで、天気予報に引き続き、県内各地に配置されたモニタリングポストの測定結果が「各地の放射線量」として放送され

ていました。花粉や紫外線と同じように、日常生活の情報として伝えられるのです。また毎週金曜日には放射線量のほかに、「海水放射能観測データ」としてトリチウムの測定結果も放送されました。

(2) 原子力緊急事態宣言（福島第一原子力発電所で起きた事象について）

2013年9月7日、五輪誘致のためにIOC総会で東京をアピールするため、「アンダー・コントロール」（「制御・管理できている」との意）を強調した当時の安倍首相が、2016年に原子力緊急事態宣言が解除されない理由を説明しています。

「原子力緊急事態解除宣言については、原子力災害の拡大の防止を図るための応急の対策を実施する必要がなくなったと認めるときに行うこととされており、住民の避難や原子力事業所の施設及び設備の応急の復旧等の実施状況等を踏まえ、総合的な見地からこれを行うかどうか判断するものであるため、現時点において確たる見通しを述べることは困難である。平成二十八年三月十一日 内閣総理大臣 安倍晋三」

(3) 中間貯蔵施設に運ばれた汚染土

中間貯蔵施設は、「中間」という言葉が示すように、除染で取り除いた土壌や放射性物質に汚染された廃棄物を、最終処分をするまでの間、安全に管理・保管するための施設とされています。この汚染土は、中間貯蔵開始後30年以内に（2045年までに）、福島県外で最終処分を完了することが、法律で定められています（日本環境安全事業株式会社法の一部を改正する法律 平成26年法律第120号 附帯決議）。

(4) JNN ドキュメンタリー ザ・フォーカス 『震災10年福島 ～非日常を撮り続けて～』

【放送内容】

(2020/12/20日 放送)

東京電力・福島第一原発事故で拡散された放射性物質。福島市内の除染はほぼ完了し、かつて町中にあったフレコンバッグも目立たなくなりました。しかし、除染土壌の多くは、市内に点在する「仮置き場」に移動されただけで、市民の目の前に今も存在します。取り戻されたかのような「日常」の中、ふと現れる「非日常」の世界、こうした風景を福島市で高校教師（美術）をしている赤城さんは撮影し続けました。

このドキュメンタリーは、赤城さんを中心に描いますが、かつて同僚（国語）の中村晋（すむ）さんのことも大きく取り上げています。授業で震災を取り上げる中、ある生徒が「社会への矛盾」を強く語ったことを新聞の投稿欄に書いたところ、大きな反響があったそうです（内容は『福島から問う教育と命』に掲載）。二人の先生は、それぞれ写真集や本を出しておられます。

・赤城修司 『Fukushima Traces, 2011-2013』 オシリス 2015

・中村晋、大森直樹 『福島から問う教育と命』 岩波 2013

(5) 『〈原子力明るい未来のエネルギー〉標語の考案者が語る「恥ずかしい記憶」の意味』

<https://www.jprime.jp/articles/-/21979?display=b>

(6) 請戸小学校の奇跡

<https://kahoku.news/articles/20211024khn000019.html>

(7) 映画『無念』

<http://cinekyara.co.jp/blog/1028>

#### IV 預言者のことばを聞き、預言者に連なる

(1) 足尾銅山鉛毒問題

古河鉛業は、1973年、鉛山資源の枯渇を理由に銅の採掘を止めましたが、閉山後も銅精錬所は、輸入鉛石による精錬を1989年まで続けました。足尾の山に残された膨大な量

の銅鉱石の選鉱で生ずるカスや銅精錬残渣は、14の堆積場に野積みされたままになっています。そして、堆積場から今も有害物質が流出し、廃坑の坑道から鉱毒の流出が完全に止まることはありません。流出した鉱毒は渡良瀬川の泥に混じり堆積し、大雨や洪水の度に鉱毒が田畑を汚染します。

1958年には堆積場の一つ、源五郎沢堆積場が決壊し、鉱毒水が流出して下流域一帯に大きな被害をもたらしました。東日本大震災の地震の余波とみられる地滑りでも、源五郎沢堆積場が崩れ、鉱毒汚染物質が渡良瀬川に流出し、下流の農業用水取水地点では基準値を2倍上回る鉛が検出されました。

残土のことも含め、鉱毒による汚染の問題はタブー視されていて、あまり表にはでてきませんが、100年近く経っても汚染の問題は何も解決していません。

- ・ 鉱毒問題の今 足尾は終わっていない（上毛新聞オピニオン）

<https://yamba-net.org/43141/>

- ・ 2011年3月11日の震災により再び源五郎沢堆積場の土砂が流出

<https://syozo-uni.net/info/?p=56>

## (2) 水俣病

1950年代、八代海沿岸の熊本県水俣市で、手足がしびれたり、カラダがふるえたり、言葉がしっかり話せず、相手の言葉が聞きとりにくいなどの症状をうったえる人たちが増えました。ひどい場合は激しい痛みにおそわれ、意識不明になったり、亡くなることもありました。当時、この病気の原因はわからず、地域の名前をとって水俣病と名づけられました。

その後、ビニール製造に必要な原料（アセトアルデヒド）をつくる時に発生したメチル水銀によるもので、これが工場廃水に混じって海に流れ、魚や貝を食べた人たちの体にとりこまれ、水俣病の症状が出たことがわかりました。汚染原因となったチツソは、メチル水銀が水俣病の原因であることを長く認めませんでした。

## (3) NHKスペシャル『原爆初動調査 隠された真実』（2021/8/9放送）

### 【放送内容】

アメリカ軍は、原爆を投下後、秘密裏に残留放射線を測定し、きわめて高い値を確認し、さらにそれが人体にどのような影響を及ぼすかまで研究しています。アメリカ政府は、科学者たちに圧力をかけて、放射能汚染の事実と残留放射線の影響を隠蔽しました。

原爆開発計画「マンハッタン計画」の総責任者グローブスは、被爆地に残る「残留放射線」の影響に頭を悩ませていました。日本が被爆直後から被害を世界に訴え、原爆という死の兵器を使い続けければ、すべての人類と文明は破滅するだろうと訴えていたからです。

1945年9月、調査団の一人が、被爆地、広島・長崎で撮影したプライベートフィルムと証言テープが見つかりました。彼の任務は、地域に残った放射線を測定することで、どこまで残留放射線が広がっているのかを確認しています。

長崎市西山地区は市街地から3キロの山あいにはありますが、住民の体調不良や、原因不明の死が相次ぎました。山の陰にあり、初期放射線を受けなかったにも関わらず、爆心地より高い残留放射線が認められました。この地区の放射線量の最高値は1080  $\mu$  r/hr（毎時マイクロレントゲン）=11  $\mu$  Sv/hrを示し、一般人の年間線量の限度を、4日で越えます。残留放射線が高い理由は、爆発後に雲が上空を通過し、雨が降り、盆地であるため放射性物質が堆積したと考えられます。

彼は、調査に向かう前、責任者からこう言われました。「君たちの任務は、放射能がないことを証明することである」。彼が「我々は残留放射線を測るように命令を受けたのですが」と言ったところ、責任者は「放射線量が高くないことを証明しろ」と言われたそうです。



(4) 熊取六人組

原子力利用の危険性について研究し、追究し続けてきた京都大学原子炉実験所（現・京都大学複合原子力科学研究所）原子力安全研究グループの6人の科学者（今中哲二・海老澤徹・川野眞治・小出裕章・小林圭二・瀬尾健）の通称になります。

・細見周 『熊取六人組 反原発を貫く研究者たち』 岩波書店 2013年

(5) マタイの福音書 5章13～16節

B ここで取り上げなかった課題など — キーワード（太字）と参考資料

1 健康被害

① **子どもの甲状腺がん**

・NPO法人 3・11甲状腺がん子ども基金

<https://www.311kikin.org/>

・榊原崇仁 『福島が沈黙した日』 集英社 2021年

② 帰還の規準の20ミリシーベルト/年

・安倍政権が見捨てた福島・飯舘村から悲痛な叫びを『報ステ』が報道「東京が1mSvなのに、なぜ福島は20mSv？差別でしょ」

[https://www.excite.co.jp/news/article/Litera\\_2982/](https://www.excite.co.jp/news/article/Litera_2982/)

古城利明「フロンティアとしての沖縄」『法学新報』108巻3号，2001年，p.417－443.

・「20ミリシーベルト」と幻の安全・安心論（京都大学原子炉実験所 今中哲二）

<http://www.rri.kyoto-u.ac.jp/NSRG/etc/kagaku2017-7.pdf>

2 事故の検証

・添田孝史 『東電原発事故 10年で明らかになったこと』 平凡社 2021年

3 事故の処理

① **廃炉の見通し**

・原発事故10年 残り30年で廃炉の作業を終えることができるのか（2021年3月 NHK）

[https://www3.nhk.or.jp/news/special/nuclear-power-plant\\_fukushima/feature](https://www3.nhk.or.jp/news/special/nuclear-power-plant_fukushima/feature)

/article/article\_09.html

② **汚染水**

・小出裕章 『原発事故は終わっていない』 毎日新聞出版 2021年

4 **東電・国の責任** — 裁判

海渡雄一（福島原発告訴団監修）

『市民が明らかにした福島原発事故の真実 東電と国は何を隠ぺいしたか』

彩流社 2016年

5 原子力行政の今後

① **再稼働・避難計画**

・テレメンタリー2021

『拭えぬ不安 避難計画～福島教訓はどこに～』（テレビ朝日2021年6月27日）

<https://kakaku.com/tv/channel=10/programID=108546/episodeID=1480178/>

- 日本の原子力発電所マップ 2021年版

<https://www.nippon.com/ja/japan-data/h00967/>

- 原子力発電所の現在の運転状況 (原子力規制委員会)  
[https://www.nsr.go.jp/jimusho/untent\\_jokyo.html](https://www.nsr.go.jp/jimusho/untent_jokyo.html)

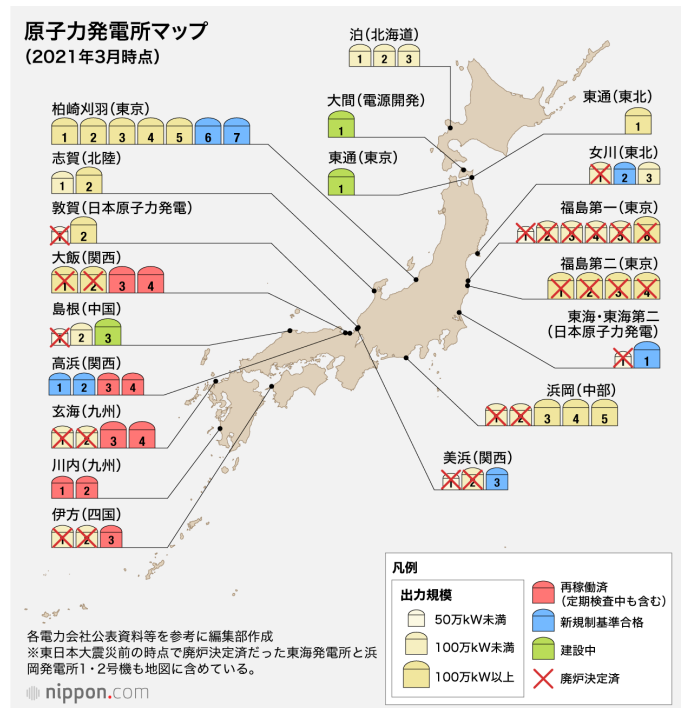
- 東海第二運転禁止 他の原発訴訟にも影響 10年前の経験と現状踏まえた判断 (2021年3月19日 東京新聞)

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/92346>

## ② エネルギー政策

- 福島原発事故10年：日本の原子力  
・エネルギー政策をどうするか

[https://www.renewable-ei.org/activities/column/REupdate/20210226\\_2.php](https://www.renewable-ei.org/activities/column/REupdate/20210226_2.php)



日本の原子力発電所マップ 2021年版

## 6 核のセキュリティー

- 核セキュリティー／外務省  
[https://www.mofa.go.jp/mofaj/dns/n\\_s\\_ne/page22\\_000968.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/dns/n_s_ne/page22_000968.html)
- 「核セキュリティー文化ズタズタ」 柏崎刈羽めぐり規制委／朝日新聞 (有料記事)  
<https://www.asahi.com/articles/ASP3K7TZTP3KULBJ009.html>
- 東電・柏崎刈羽原発、核物質の防護機能喪失で初の最悪レベル「赤」評価 (YouTube-TBS NEWS)  
<https://www.youtube.com/watch?v=-nqUBk2VeOY>
- ウクライナ情勢における原発状況／原子力資料情報室  
<https://cnic.jp/41496>

## 7 情報の発信

### ① 『おしどりマコ・ケン』

- 真実を知りたい、知らせたい お笑い芸人ジャーナリスト『おしどりマコ・ケン』、欧州を巡る

<https://speakupoverseas.com/mako-ken-in-europe/>

- おしどり ポータルサイト

<http://oshidori-makoken.com/>

### ② 季刊『NONUKES voice』 鹿砦社

# 追加報告

## 最近の放射能汚染地区や 福島第一原発周辺の様子

現地の様子は短期間のうちに大きく変化するので、講演を控えて、現状を少しでも知るために、福島市のO牧師と2名で現地視察をしました（2022年4月22日）。その報告です。

### 1 コース

時間の関係で、『東日本大震災・原子力災害伝承館』や『東京電力廃炉資料館』は行けませんでした。

福島市 → 川俣町 → 浪江町・津島地区 → 請戸地区（請戸漁港、震災遺構・請戸小学校、棚塩産業団地） → 双葉町（双葉町産業交流センター） → 大熊町（長者原、JR大野駅周辺） → 富岡町（とみおかアーカイブ・ミュージアム） → 大熊町・大川原地区（交流ゾーンの施設） → 浪江町・大堀地区 → 福島市

### 2 浪江町

#### ① 津島地区

国道114号線で川俣町山木屋地区を通り抜け、浪江町・津島地区に入ると、帰還困難地区となり、これまでと変わらず、空間線量が非常に高くなります。除染や整備がなされてきたので、当初からある立ち入りを規制するバリケードや警告看板を除けば、全体として見えるのは、静かな穏やかな風景ですが、今も人が暮らせるような場所ではないのです。

#### ② 震災遺構・請戸小学校（入館料 大人300円）

昨年10月に震災遺構として公開されて、今回はじめて内部に入りました。



津波の破壊力やそれにもかかわらず逃げることができた『請戸小学校の奇跡』について、詳しく知ることができます。今回特に印象的に感じ



たのは、建物の外（校庭？）にあるカエルのモニュメントです。「かえりたい」との思いを込めているようで、福島第一原発の方角を見つめています。

#### ③ 棚塩産業団地

福島の放射能汚染と向き合っていると、いつも『光と陰』を意識します。東北電力浪江小高原子力発電所立地予定地だった沿岸部の棚塩産業団地は、福島イノベーション・コースト構想を推進する場所として復興のシンボルになっています。その意味で、『光』を見る場所かもしれません。福島ロボットテストフィールド（ドローンの飛行試験場など）や福島水素エネルギー研究フィールドなどの新しい施設がひろびろとした敷地に広がっています。



製造した水素のタンク

#### ④ 大堀地区

帰還困難区域となり、町外へ避難を余儀なくされた大堀相馬焼窯元の多くがあった大堀地区を、帰りに、初めて通りました。空間線量は高いです。

### 3 双葉町

『東日本大震災・原子力災害伝承館』に隣接してある『双葉町産業交流センター』に寄りました。とても立派な施設です。屋上展望台からは、福島第一原子力発電所や中間貯蔵施設などを見渡せます。

### 4 大熊町

#### ① 大野駅周辺

かつて原発の最寄り駅として賑わった駅周辺は、去年の7月に視察に来たときは、入れないようにバリケードがありました。今は規制が解除され自由に行き来できます。いたるところで家屋の解体が行われて『解体除染工事』のゼッケンをつけたトラックが、解体廃材を積んで走り回っています。



図書館近くの家屋解体



西口側商店街

西口側の商店街は、除染されているので空間線量は下がっていますが、それでも高く、ところどころ $1\mu\text{Sv}/\text{時}$ を越えるホットスポットがあります。駅の東口側には図書館があります。いわゆる白地地区で、除染はされていないので、おしなべて $2\mu\text{Sv}/\text{時}$ ぐらいありました。その中で、普通に家屋の解体作業が行われています。作業者の健康は大丈夫でしょうか<sup>(1)</sup>。

#### ② 大河原地区

2021年10月17日、村役場に隣接して、交流施設「linkる大熊」、宿泊温泉施設「ほっと大熊」、商業施設「おおくまーと」からなる商業施設ができました。きれいな立派な施設です。

「町の復興と、目標とするまちづくりを目指す事で、大熊町内でお住まいの方にはますます便利で住みやすくなり、町外、県外からも魅力的に思われ、実際に住んでいただけるような街づくりを目指しています」とのことですが、帰還を断念した住民は多く、現状をどう受けとめたらよいのか複雑な気持ちになります。

### 5 富岡町

これまで行く機会がなかった『とみおかアーカイブ・ミュージアム』（入館無料）を見学しました。『東日本大震災・原子力災害伝承館』は福島県の施設ですが、これは富岡町の施設になります。町の歴史や東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の経験を伝えます。常設展示室には、津波で被災したパトカーなど約430点の資料を展示しています。

(1) 福島県双葉郡大熊町大野駅周辺の空間線量・ホットスポットの状況について #除染 #避難指示解除 #東京電力福島第一原発事故 (2022. 3. 4作成)

<https://togetter.com/li/1853834>